

●里山展始まる 618 点中 31 点を展示発表 絶滅危惧種 11 点

京田辺市中央図書館ギャラリーかなび

ここ数年間木津川堤防の強化工事が実施され、80%近くの完了を迎えました。2015 年から工事後の植物調査を行ってきました。里山の会の結成 20 周年と重なったので記念事業と位置付けました。その調査の最終年度を 3 月に控え記念写真集の編集（618 枚の植物）が大詰めを迎えたので、発刊に先立って写真集の一部を公開しました。いずれも未公開の大変魅力ある作品となっています。32 枚の内訳は、絶滅危惧植物（京都府のレッドデータ指定）は 11 点と一般植物は 20 点の公開です。展示物には近畿地方で唯一の植物や木津川で唯一の植物、それに工事の結果見られなくなってしまったものも含まれています。初日の展示準備作業中にもかかわらず来館者が来られ熱心に質問をされる場面も数多くありました。植物以外にも 1 月 22 日に発見確認した絶滅寸前種のカスミサンショウウオの成体写真も展示して京田辺市の豊かな自然環境を明らかにしています。日ごろかなり注意して散歩していてもなかなかこれだけの植物に接することは難しいものです。里山の会が自信をもってご案内する 3 年間の努力の結晶作品なのです。このチャンスにご覧ください。ご来場をお待ちしています。期間は 19 日(日)午後 4 時までとなっています。

●マラソン後始末 残るは薪（軽トラ一台分）の運び出しです。先週号で大会の各部署のご紹介をいたしました。今回は後始末についてお知らせいたします。何よりも本会場の泥んこ道はとにかく大変でした。以前の冠水に幾度も見舞われて、ニコ土がかなり堆積しているので、雑草の生え方もまばらで、全面的に敷き詰めたようになっていないので、重量物（普通トラックなど）の通行が集中する場所は見ると無残になっています。近頃はめったに見られないぬかるみ状況になります。準備期間には雨らしい雨がほとんど無い場所でした。その後、一週間が経過しましたが、まだ水たまりが残っています。通路になっていた所は依然として、通行が不可能です。乾ききらないと軽トラックでも通行は難しいと思われます。それでも後片付けは、翌日の月・火の二日間で大部分の収納は完了しましたが、長尺ものは運搬がむづかしく手間取りました。開催に向かっては意気も高く大勢の方々のお手伝いがあって、順調でした。しかし、泥んこ道での後始末は手間がかかります。しっかりと丁寧に始末ないと次回の出発にあたって、一からやり直さなければなりません。道具や備品の片づけと同時に、事務処理も大変です。会計処理、大会の諸表整理など目に見えない処理もなかなか大変です。それでも連日の奮闘で 10 日目にして、少し落ち着きを取り戻すことができましたようです。残るは会場暖房用の薪の運び出しとなっています。

●木津川一斉クリーン作戦 644 人参加 里山の会は山城大橋東詰を担当 30 人の参加がありました。中西かよさんは西詰を担当されこの日最大の 100 人の参加がありました。10 年前に始めた木津川清掃は 50 本の木杭を立て、開催日の告知をして始めました。今回は淀川一斉清掃の一環にとりくむことで 2 月 12 日に行ったところ 664 人 39 団体の参加がありました。地元の南都銀行さんはそれぞれの拠点に職員を派遣いただき主力を担っていただくなど頑張ってくださいました。山城大橋西詰では新しく就任された河川レンジャーの中西かよさんが 100 人の協力者をまとめて作業を仕切ってくださいました。東詰めでは深田理事長のもとに 30 人が参加いただきました。中でも城陽市のサッカー少年団が奮闘してくれました。また淀川環境委員会の同志社大学准教授の光田先生（本会顧問）も先頭に立って清掃活動を引っ張っていただきました。大変寒さの厳しい中多くのみなさんが活躍いただき、ご苦労様でした。

●琵琶湖淀川流域圏連携交流会幹事会 河川活動団体(17 団体)の交流会を 25 日開催決定

「笠置から大阪湾まで三日間にわたるカヌーでの下り」や「淀川沿川の清掃活動調査」などを企画して交流を深めている河川協力団体認定の幹事会が開催されました。2 月 25 日（土）13 時から摂南大学で近畿河川フォーラムとして開催されます。同時に河川協力団体の協議会についても相談が行われる予定です。三川合流点に完成するさくら出合いの館オープンに合わせて「琵琶湖・淀川流域圏のかなめ 三川合流の魅力」の冊子(30 ページ)の打ち合わせも進み、3 月末に発行予定となりました。

●自然環境保全京都府ネットワーク「結成総会とシンポジウム」2 月 25 日 13 時より西陣織会館で開催

いよいよ自然環境保全京都府ネットワークの結成が間近に迫ってきました。里山の会が 10 年前にカスミサンショウウオの卵囊を発見時の京都府の対応では、見守ってということでした。その後レンリソウやフナバラソウの発見、木津川生育植物標本の保存庫など自然環境保護の取組みの発展強化を求めてきました。それが「絶滅の恐れのある生き物」の指定として実現し、保全を形の上で整えることになってきました。しかしそれ以後の動きが見られない中、2016 年度の里山の会の年度総会で、京都府に自然史博物館はないので、運動を提起し実現を図るべきだと意見要望があって、京都府へ働きかけました。自然環境保全課が府民の声を受け止めて、府下の活動関係団体に呼びかけ 4 回の集いをもって、原案を作成し、ネットワークの結成総会の開催に至りました。里山の会の働きかけが、実を結ぶことになりました。当面は諸団体の情報交流を深めつつ、できれば建設を目指そうという緩やかな組織として結成されます。これは京都府政、始まって以来の自然系団体の組織が誕生することになりました。結集する諸団体の待ち望んだ成果です。各会員と関係各位のご参加をお願いいたします。特に里山の会員の皆さんのご参加をお願いいたします。参加費無料です。先着 150 名受付なので、大至急里山の会または京都府自然環境保全課へメールかファックスで申し込んでください。定員になり次第しめきりとなります。大至急お願いします。

●KBS ラジオ午前 7 時の「ほっかほっか噺の朝ごはん」から生放送による電話取材の依頼ありました。対応は山村が行います。内容は 11 年ぶりにカスミサンショウウオ成体発見に関するものです。放送日時は、明日 17 日(金)午前 7 時 10 分ごろから 15 分間の対話と予定されています。

●第 22 回自然環境講演会 3 月 4 日(土) 13 時会場決定 昨年と同様聴覚障害者支援センター「さんさん」です

講師は松井先生(前京都大学教授)で、演題は「絶滅の恐れのあるカスミサンショウウオの生態」でお願いしています。また行政の立場から京都府の「保全とその取り組み」、京田辺市役所から「カスミサンショウウオの保全」についての報告をお願いしています。ご期待ください。